※令和３年度以前入学生用

学校番号	2001

令和５年度　公民科

教科	公民	科目	倫理	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	「高校倫理　新訂版」　（実教出版）						
副教材等	「アプローチ　倫理資料」（東京法令出版）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・思想や宗教の学習においては、自らの生き方、在り方への関心を高めると同時に、他者とともに生きるという視点が必要である。
・自己の人格形成と、よりよい社会のあり方を探ることを通してよき公民としての資質を養うことが大切である。
・先哲の思想を学ぶことは、同時に現代の問題にかかわるという視点が肝要である。

２　学習の到達目標

・青年期の意義や課題を理解して、主体的に自己の人格形成に努め、社会における自己の役割を自覚させる。
・先哲の考え方、生き方を手がかりにさまざまな価値を学ぶことを通して、よりよい自己、よりよい社会を主体的に探究することの意義を自覚させる。
・国際社会の中での日本人としての自覚を促し、日本の伝統文化の一端に触れさせる。
・現代社会が抱える諸課題に主体的にかかわり、倫理的かつ論理的な思考を駆使してその問題の解決策を探究する資質を養う。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	現代の社会と人間にかかわる事項に対する関心を深め、意欲的に課題を追求するとともによりより社会の実現に向けて参加し、人間としてのあり方生き方についての自覚を深めようとする。	さまざまな思想、価値観、世界観、人生観に触れることで、自己の生き方･在り方を主体的に選択し、かつ異なった価値観を理解しようと務める。	資料集の活用など適切な情報収集の技能を身につけ、異なった価値観を排斥するのではなく、理解し、民主的な合意形成をめざす。	古今東西のさまざまなものの見方考え方を理解し、現代社会が抱える倫理的課題に主体的にかかわる。
評価方法	定期考査 授業での観察 レポート	定期考査 定期考査内での 自由論述	定期考査 授業での観察 レポート	定期考査 授業での観察 レポート

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和３年度以前入学生用

４　学習の活動

学期	単元	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
一学期	現代に生きる自己の課題	・青年期の意義 ・自己の理解 ・豊かな自己実現	○ ○	○	 ○	 ○ ○	a:青年期における自己形成の意義を理解し、主体的に取り組む。 b:人間尊重の精神に基づいて自己の在り方を考える。 c: 他者とともに生きるという視点で、情報を積極的に活用する。 d: 現代の倫理的課題に関心を持つ。	定期考査 授業観察 レポート
二学期	人間としての在り方生き方	・人生における哲学 ・人生における宗教 ・人生の知恵 ・人生における芸術	○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○ ○	a:人間の存在や価値への思索を深める。 b:人生における哲学や宗教の持つ意義について学び、自己の人生観、社会観の形成に生かす。 c:さまざまな視点の存在を知ることで民主的な合意形成に資する。 d:現代の諸課題を先哲の思想に照らして考える。	定期考査 授業観察 レポート
三学期	国際社会に生きる日本人の自覚	・日本の風土と伝統 ・日本人の自然観、人間観、宗教観 ・外来思想の受容	○ ○ ○	 ○ ○	 ○	○ ○ 	a:日本人としての自覚に基づいて日本の伝統を振り返る。 b:さまざまな思想家、宗教家の考え方を深める。 c:国際社会の中での日本人の役割を考える。 d:現代日本が抱える問題を日本の伝統に即して考える。	定期考査 授業観察 レポート
	現代と倫理	・現代に生きる人間の倫理 ・現代の諸課題と倫理	○ ○	 ○	 ○	 ○	a:人間の尊厳と生命への畏敬についての理解を深める。 b:民主社会における他者との共生を理解する。 c:科学技術の進歩と人間や社会の在り方を考える。 d:諸課題についての理解を深める。	定期考査 授業観察 レポート

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　b:思考・判断・表現
c:技能　d:知識・理解

※令和３年度以前入学生用

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について〇を付けている。